

980

館新書會育教本日大			
二	二	二	二
四册	四號	二架	六函

東
新

一

宇田川
準一譯
小學讀本

四

宇田川準一譯
小笠原東陽校

卷四

小學讀本



文學社刊行

小學讀本卷之四

宇田川準一 譯

小笠原東陽 校

第八課

第一

此女兒ハ人形を持てり。○汝はそれを見
りや。○それハ愛らき人形なりや。○汝は
人形を好めりや。○然り吾は甚だこれを好
めり。○此童子も亦人形を持てりや。○否彼

東

宇田川準一譯
小笠原東陽校

卷四

小學讀本



文學社刊行

小學讀本卷之四

宇田川準一 譯

小笠原東陽 校

第八課

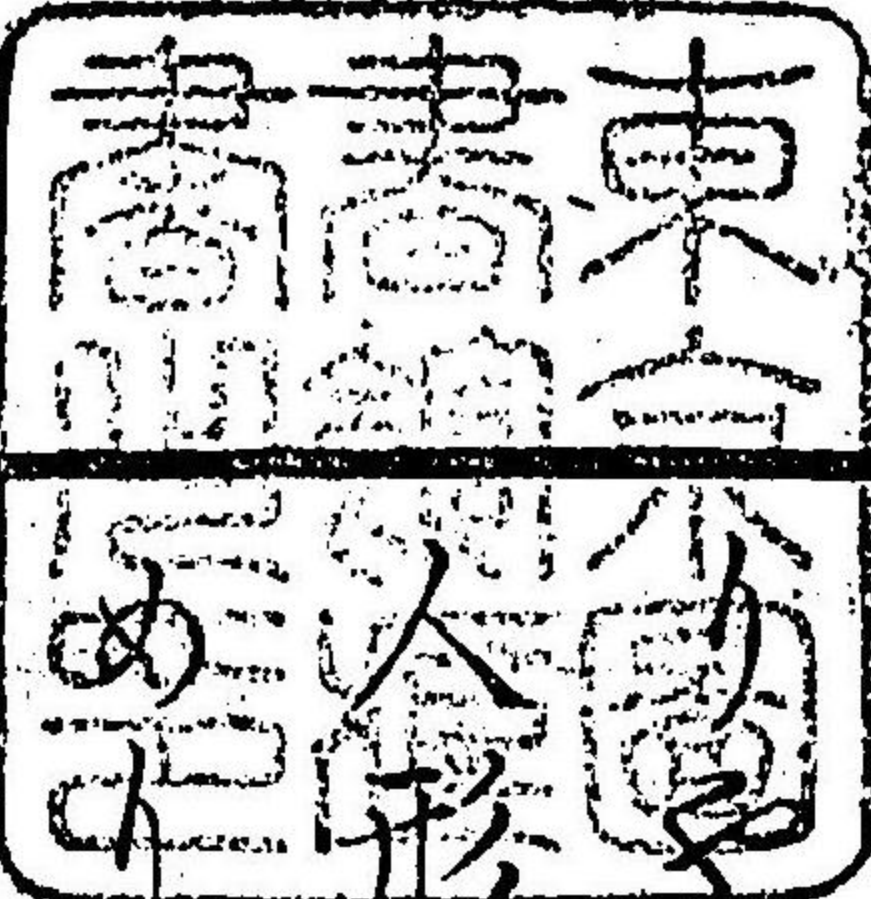
第一

此女兒ハ、人形を持てり。○汝は、それを見よ。

○それハ、愛らき人形なりや。○汝は、

人形を好めりや。○然り、吾は、甚だ、これを好

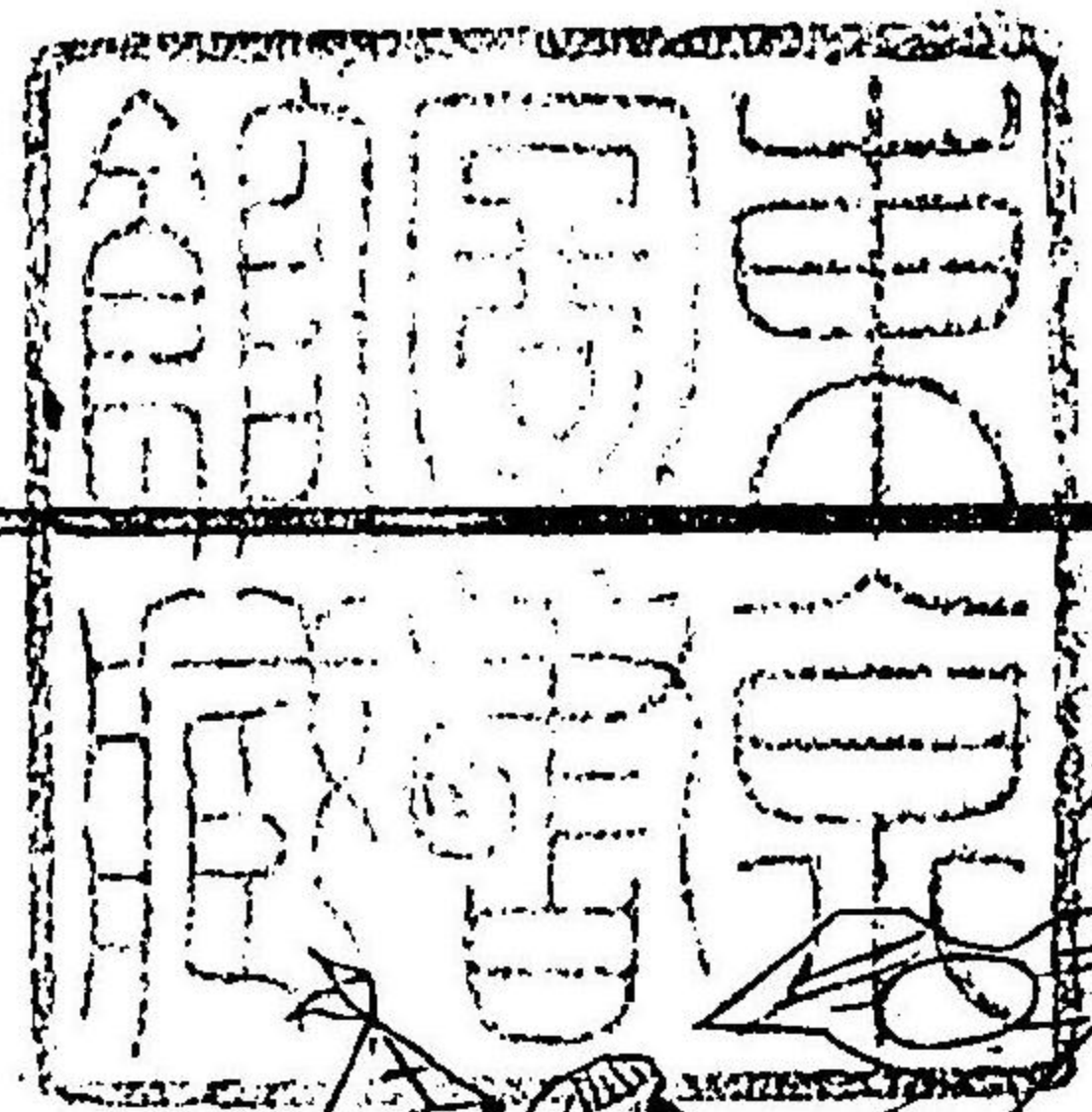
めり。○此童子も、亦人形を持てりや。○否、彼





は、鞭を持てり。○汝ハ、
 此童子も、亦、人形を持
 ちて、遊ぶ、こと、茲、願ふ
 と、思ふや、○否、彼ハ、こ
 れを、願はざるべし。○
 汝は、よく、心を用ひて、
 人形と、其衣服とを、弄バ、
 ざるべからば、○汝
 は、其、人形の帽子と、小
 さき靴とを、造ること、を、
 得るや、○吾ハ、これを、
 造ること、を得るなり、

第二



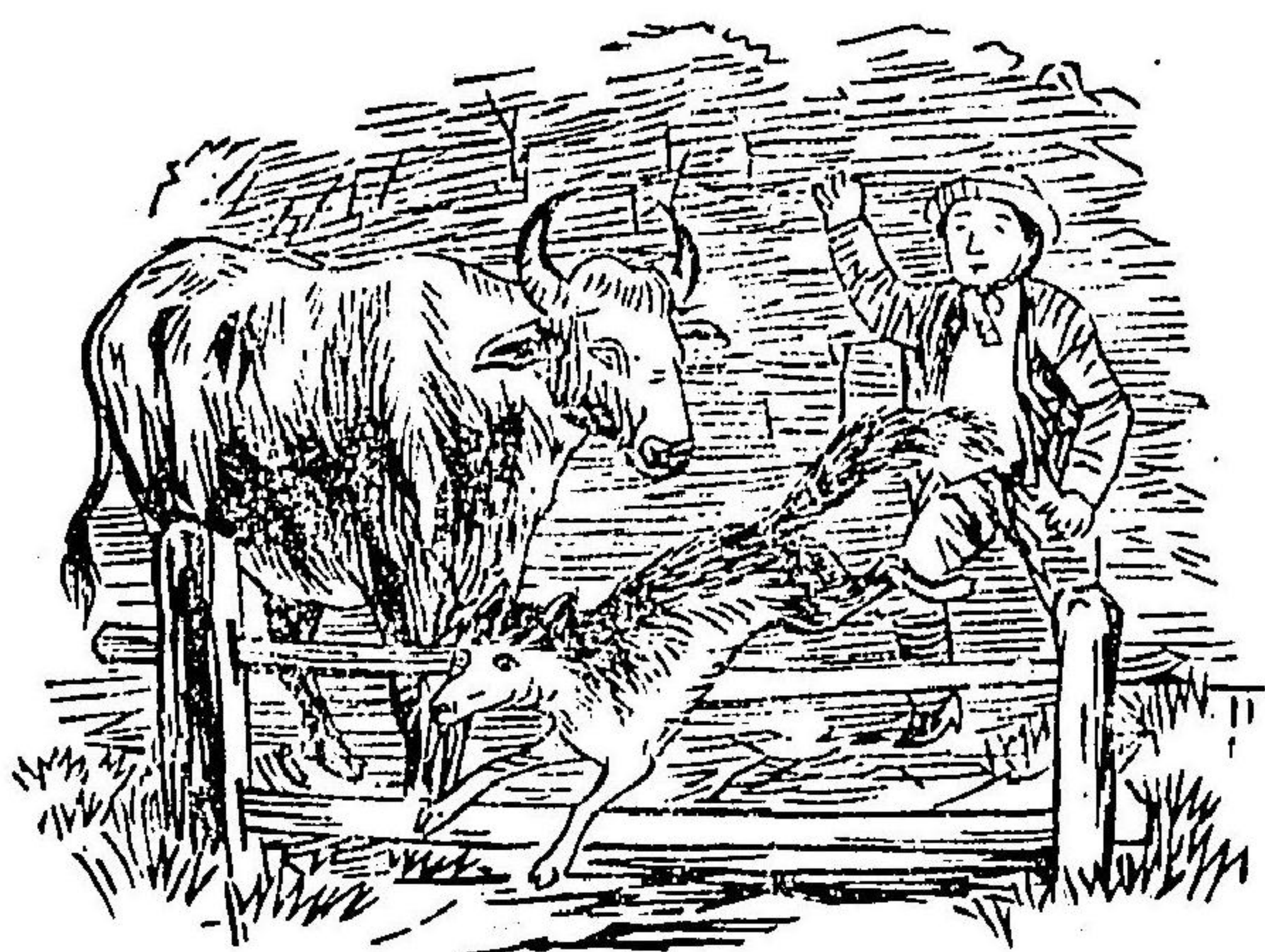
爰、又、四人の童子あり、○
 其中の大なる童子
 は、肩に、大鼓を掛けて、
 両手、撥を持てり。○
 汝は、彼の、大鼓を、撃つ
 を、見たりや、○汝ハ、其
 音を、聞けりや、○否、甚
 だ、遠く、隔りたれば、こ
 れを、聞くこと、能はば、
 ○汝は、旗を持ちたる、一
 人の童子と、銃を持ちたる、
 二人

の童子とを見とりや、○然り、吾ハ之を見とり、○彼等は、皆列を爲して、進めんと、○犬も亦

共に行けり、

第三

童子と牛と狐とあり、
○狐は、牛の側を、走
れり、○童子と牛とは、
これを見とりや、○然
り、童子ハ狐を見て、之

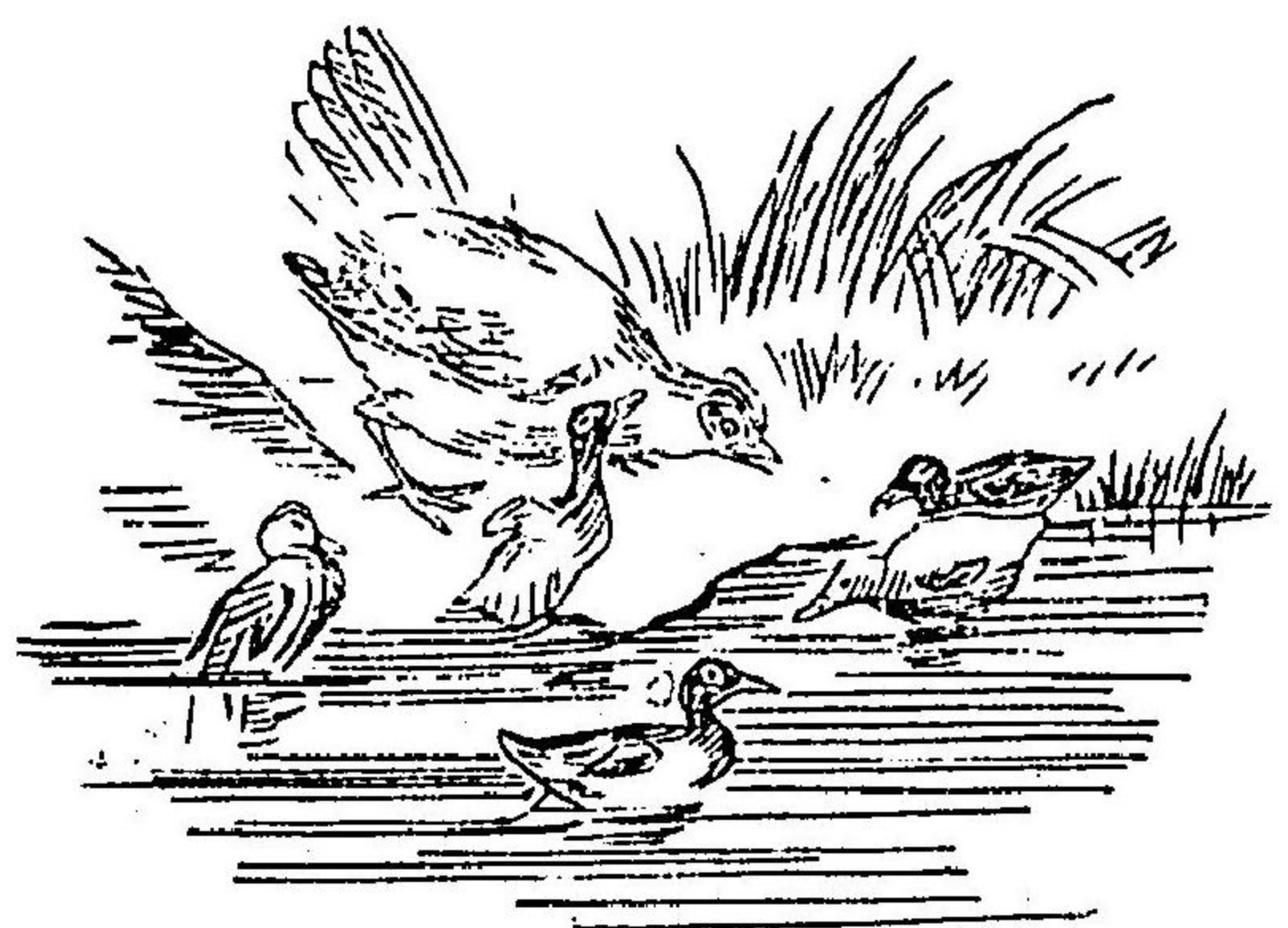


を捕へんとせり、○牛も、亦、これを見とれど
も、更よ、追ふことなし、○狐ハ、狡猾なりや、○
然り、甚ど狡猾なり、○これは、老たる狐あり
や、○否、若き狐なり、○此狐を、牝雞を捕へた
ることありや、○否、これを捕へたること、お
かるべし、

第四

此、老たる牝雞は、數多の鶯の子を、誘へり、○
此鶯ハ、皆池の中よ、入りたり、○彼等の水よ

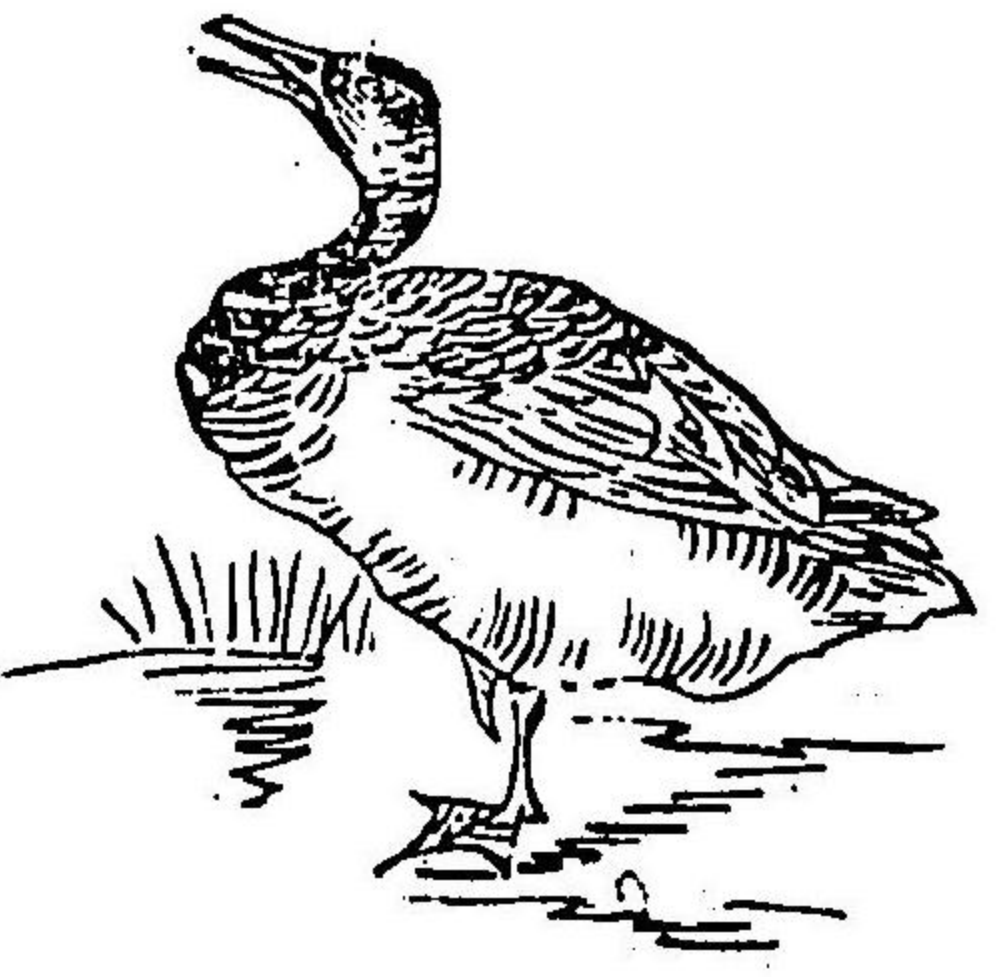
浮びて遊ぶ状を見よ、○皆甚ど樂しき状を



り、○老たる牝雞ハ彼等の溺さんことを思ひて呼び返さんとせれども、驚の子は返り來らざるゆゑ、牝雞ハ甚だ苦心とる状あり、○然れども、驚の子は更よ、牝雞よ心を掛くることあり、○汝は、牝雞の苦心するは何故

ありと思ふや、○牝雞ハ此驚の子を全く我の子と思ひ居るが故あり、

爰よ、生長したる驚あり、○其形は、牝雞と同じきや、○其嘴ハ、牝雞の嘴と相同しきや、○牝雞の嘴は、驚の嘴より、小なり、○驚の足は、大よして、蹼ある故よ、よく遊ぶことを得るなり、



第五

汝は、これを何物なりと思ふや。○それハ鳥

の巢なり。○汝は、此中

にある卵を見たりや

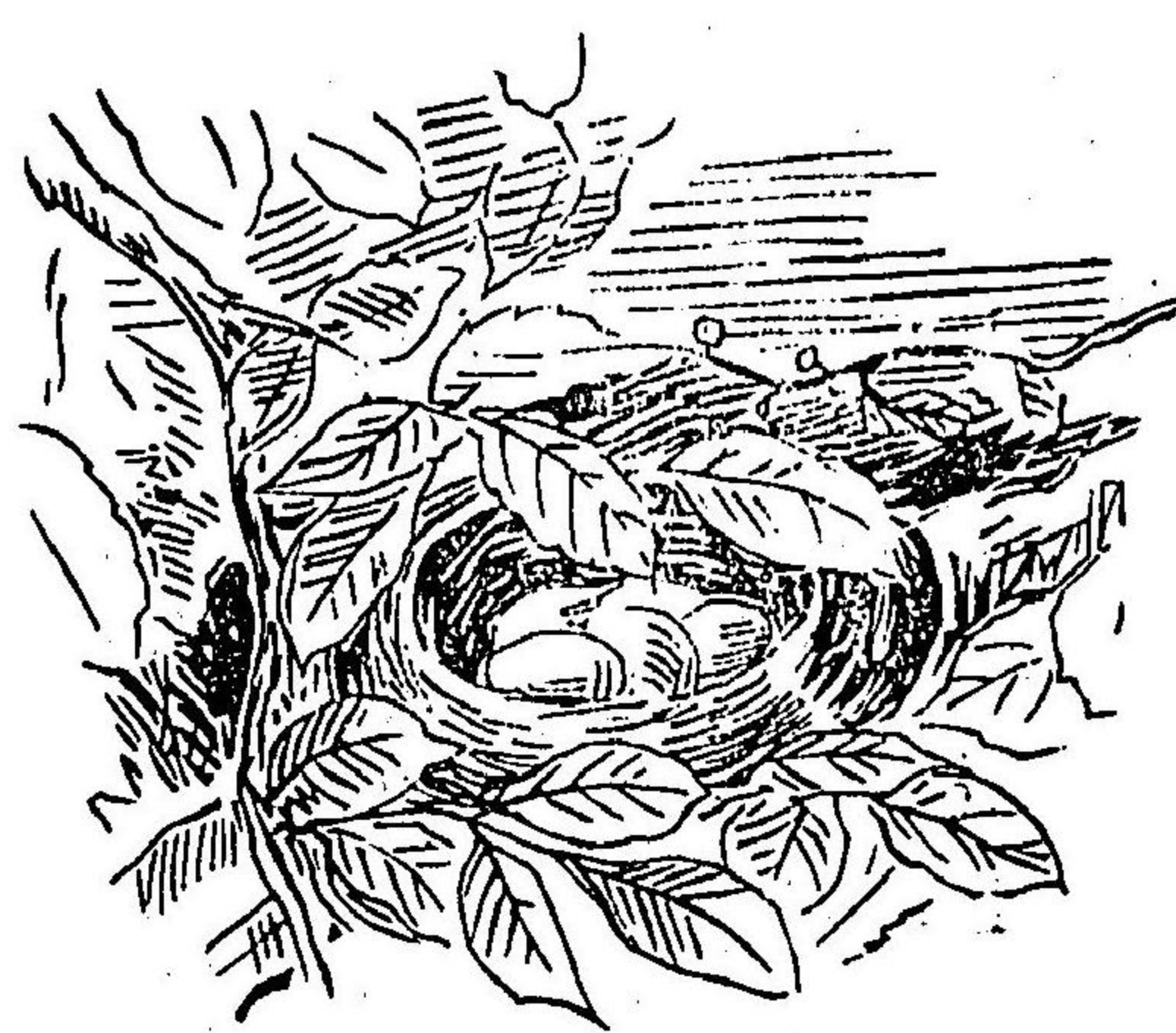
○然り、其中に、五の卵

のあるを見たり。○其

卵は、大なるゆゑ、大鳥

の巢にして、大木の、高

き處にあり。○汝ハ、其



巢の中、親鳥の居るを見たりや。○否、吾は、
これを見たることなり。○我等は、卵は觸れ
ざして、これを、其巢中に置かざるべからば、

第六

汝は、これを如何なる家ありと思ふや。○そ

れハ、學校あり。○數多の童子と、女兒とは、其

處へ行けり。○汝ハ、數多の童子が、遊歩場

居るを見たりや。○今は、放課の時間あるゆ

ゑ、遊歩場より出で、走るものあり、跳ぶもの



揚ぐる所あり○其獲たる魚は鮒なりや○

あり或は球を弄し
或は紙鳶を揚げ或
ハ環を轉がし又鞆
韃を爲しものあり

第七

爰に釣を爲せる二
人の童子あり○其
中の一人は今竿を

否鯉なるべし○魚の釣れたるとき心を
用ひて徐に竿を揚げされハ魚が糸を切りて



逃ることあり○今

日ハ晴天よあらば
して少く雨降れ
り○此の如き日は
魚を釣るに宜しき
也○然り魚を釣る
に最も宜しきハ曇

りて、暖なる日、又は少く雨降りて、暖ある日あり。○汝は魚を釣るを宜しき事なりと、思ふや。○然り、吾ハ食とる爲め、魚を釣るハ、宜しけれども、慰みの爲めに、魚を釣りて、後、これを投げ棄つるは、悪しき事と思ふあり。

第八

男女二人の少年と、犬とあり。○此二人ハ、學校へ行くづき、途中あり。○犬も、亦彼等と、共



に歩めり。○男子ハ、歩むこと速きゆゑ、女兒は、彼を向ひて曰ふ、汝ハ、歩むこと、速きよ由りて、吾ハ、共に行くこと、能はざと。○此時、男子

は、女兒を向ひて、予の手を握れ、予は、汝を助けて、共に歩むべしと、云へり。○汝ハ、此男子

を善きものと思ふや、又彼は學校へ行くとを好むと思ふや、○彼は怠らば學校へ行きて學問を勉強すると思ふなり

第九

此馬は二人の童子を載せて、急に馳せ走ることあく、又蹴ることなまきゆゑ、性の善きものなるべし、○此馬はいま止まれりや、○その馬はいま左の前足を上げて、右の後足を下と故よ、止まらば、徐よ歩めるなり



○汝は前よ乗れる童子ハ、手よ何を持てるかを、知るや、○彼は手綱を持てり、○汝は彼の兩手を見得るや、○否、吾ハ彼の右の手を

見得れども、左の手を見ること能はば

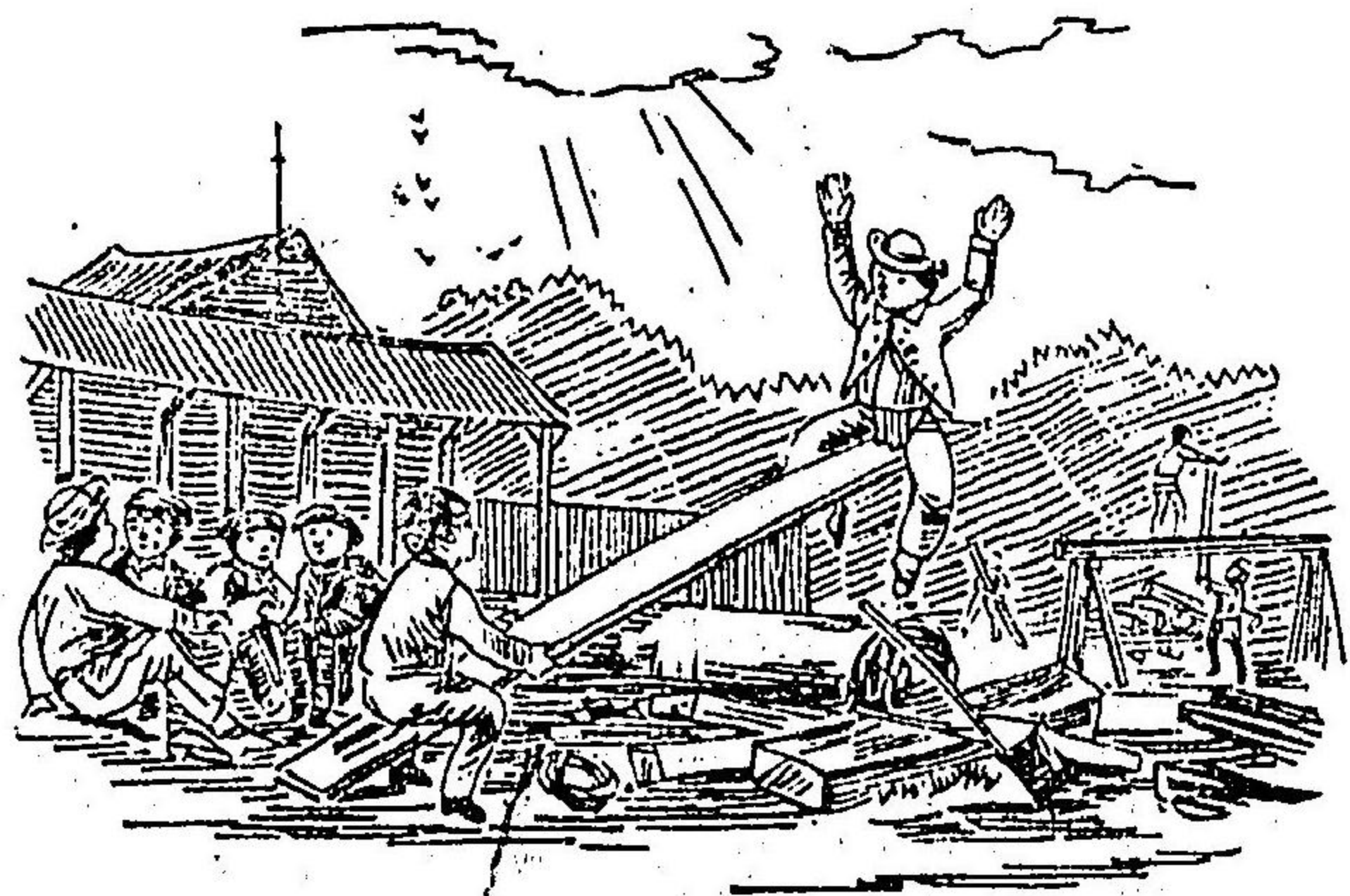
○汝は他の童子の手を見得るや、○否

吾は其兩手を見ること能はざれども

右の片手を見ることを得るあり○汝は馬
よ乗ることを得るや○汝は老て、且つ柔和
ある馬よ、乗ることを好めりや○吾は、壯
して、温順ある善き馬よ、乗ることを好む
あり

第十

大工の作事場よ、來たる、數人の童子あり○
其中の四人は、地上に坐し、二人は、長き板の
兩端よ、跨り、交番よ、昇降して、遊び居れり○

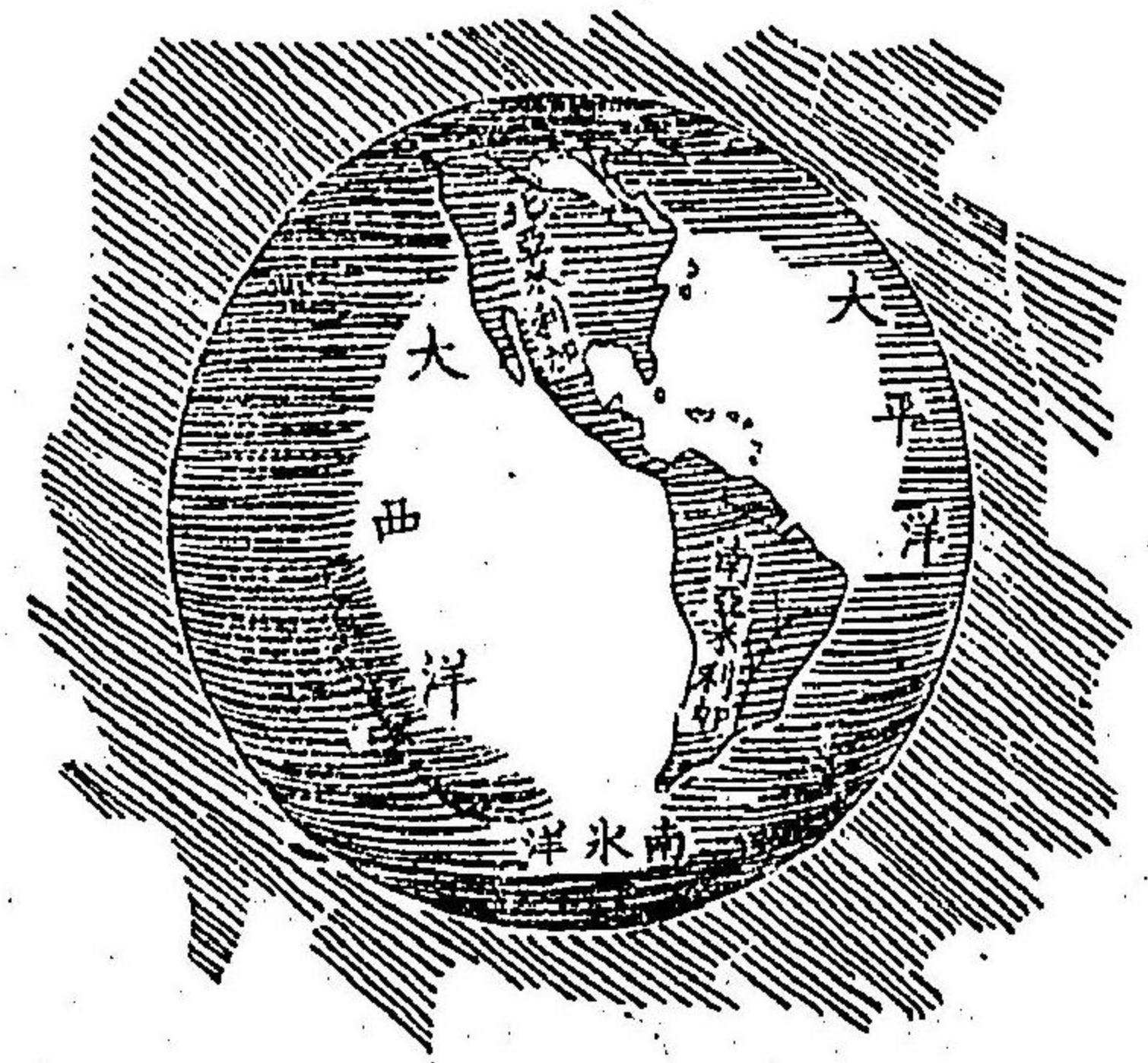


汝は、兩手を、上げたる童子を、落ると、思ふや、
吾は、落ることなりと、
思ふ○汝は、此童子の、
側らにある、道具を見
たりや○汝は、何の道
具なるを、知れるや○
一つハ斧よして、一つ
は鋸あり○童子等は、
作事場よ、入るとも、決

して諸道具よ、手を觸るべからば、○若し觸
るゝときは、或はこれを損し、或は傷を負ふ
ことあるべし、○汝は、青空よ見ゆる黒く、
て小さき者は、何なるを、知れりや、○此等ハ皆
鳥よして、甚だ高く、飛び上りたるなり、○汝
は、大工の働けるを、見たりや、○然り、吾は三
人の、働くを見たり、○汝ハ、材木の上下よ、立
てる二人ハ、何を爲と、思ふや、○彼等ハ、材
木を、縦よ、斷ち截る所なり、

第十一

我等は、皆、地球上よ、棲息するものなり、○地
球ハ、平かよ見ゆれども、實ハ、平かならば、
て、球の如く、圓し、○故よ、船ハ、乗りて、これを、
一週することを得るなり、○地球ハ、静よ止
まらずして、常よ、二様の運動をなす、獨樂の
如く、其軸を旋りながら、又、大陽の周圍を廻
るものなり、○其軸を、旋るは、毎日、一回なれ
ども、大陽を廻るよは、一年を費せり



大陽は大なる火球の如き者に、光と熱とを地球と與ふるものなり。○我等は晝の間、大陽を見得れども、夜はこれを見ることを得ず。○汝は夜間に、大陽を見得ざるは何故なるかを、知れりや。○この時は、我等の棲める部分、大陽より向ハざるが爲めなり。○大

陽は常より東より昇り、西より没するものにて、其昇るときは晝と成り、没するときには夜と成るあり。

月も亦球の如く、圓きものなれども、大陽又ハ地球の如く大ならず。○月は地球の周邊を廻るものにて、自ら光を放さざれども、其輝くの理は、大陽の光を受くるに由りてあり。

第十二

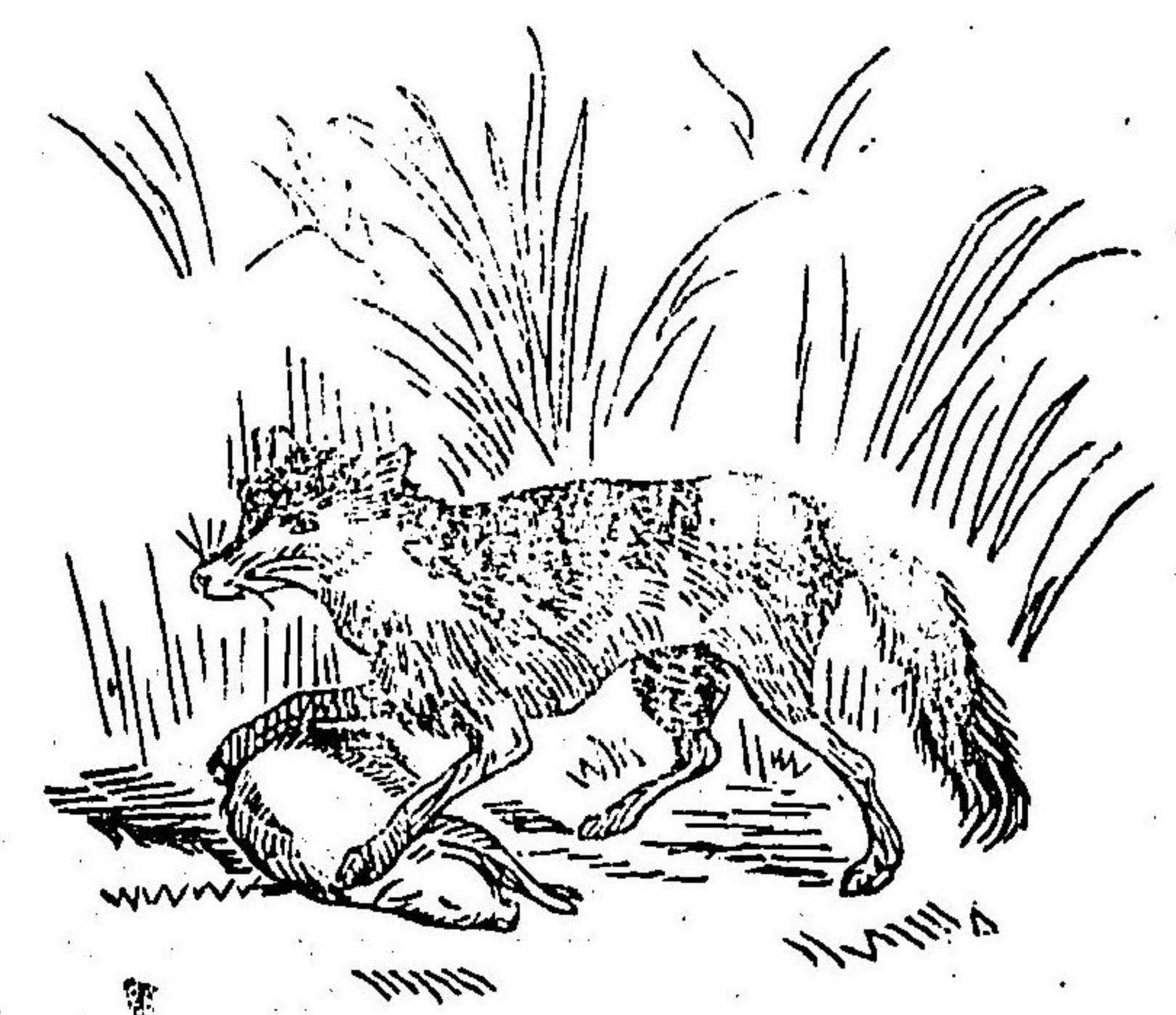


我等は草を刈るを見る爲めに爰に來れり、
 ○汝ハ今日雨降ると思ふや、○否吾は雨降
 ることなりと思ふ、○
 我等ハ積り重祿たる
 乾草の上よ坐りて二
 人の草を刈るを見る、
 ○この乾草は甚々柔
 なり、○我等はこの上
 よて遊ぶことを得る

や、○子の飼犬も亦共よ遊び戯るゝことを
 好めりや、○然り彼も共よ遊ぶことを好め
 り、○彼の遠方よ走り行くを見よ、其走ること
 と甚だ速し、○乾草は牛馬及び羊等の食物
 となるゆゑ、此人等ハ刈りたる草の乾き枯
 るゝに至れば、車よ積みて家よ持ち歸るな
 り、○豚は枯草を食ふや、○否豚は枯れたる
 草を食はざりて、枯れざるものを食ふなり、
 ○豚は生草の外よ、又穀物をも食ふこと域

好めり

第十三



狐は肉食獸よして、其形は殆んど犬に似て、小なり、頭は平かよして、廣く、鼻と耳は尖り、尾は太くして長し。○狐は、大抵、農家近傍の邱、又ハ、崖の中よ、穴を

穿ち、晝は、其中よ、隠れて、出でざれども、夜よ、至れば、其穴より出で、田畑、又は、農家の庭園等を潜行し、○此獸ハ、好みて、鶩、雞、鶩、羊の仔を食ひ、又ハ、鼠、蟻、果實等を、食ふものにして、若し、雞等を、捕一得るときは、直ちに、穴の中よ、持ち歸りて、食ふなり、○此獸は、其性甚だ、犬を恐る、故よ、若し、之よ、追ハるゝときは、忽ち、逃げ走りて、穴の中よ、潜み隠る、○然れども、若し、追ハるゝこと、急に、して、其穴

み逃げ込むこと能はざるときは茂りたる森の中に馳せ入り或は不意に左の方又は右の方と其向きを替へ走りて終ふこれを避くるものあり

第十四

蝸牛は足なきに由りて歩むこと能はざれども匍ふことを得るなり○この虫の背は螺旋状の殻あり其殻は虫の生長するに従ひて亦増大なり○この殻は強くしてこの



虫を護る爲めの家なるゆゑ此虫若し物を恐るゝときは忽ち身を縮めて其中に隠るゝものなり○此虫の匍ひ行くときハ必し四本の角を出

だせり○其中長き二本の角の頂に在る黒きものハ眼にして其口ハ他の二本の下に在り○此虫ハ暖なる時候の中は大抵草木

の葉の上よ住み寒き冬の間に地中よ入り
蟄て春の來るを待つものなり

第十五

汝は此處を好き景色なりと思ふや○汝は
童子と女兒と驢馬とを見とりや○或る童
子は門の扉よ上りて遊び或る童子は驢馬
に乗らんとせり○驢馬は小さきゆゑ童子
よても乗ることを得べし○汝は穀物を積
みたる車を見たりや○彼車は何故よ小さ



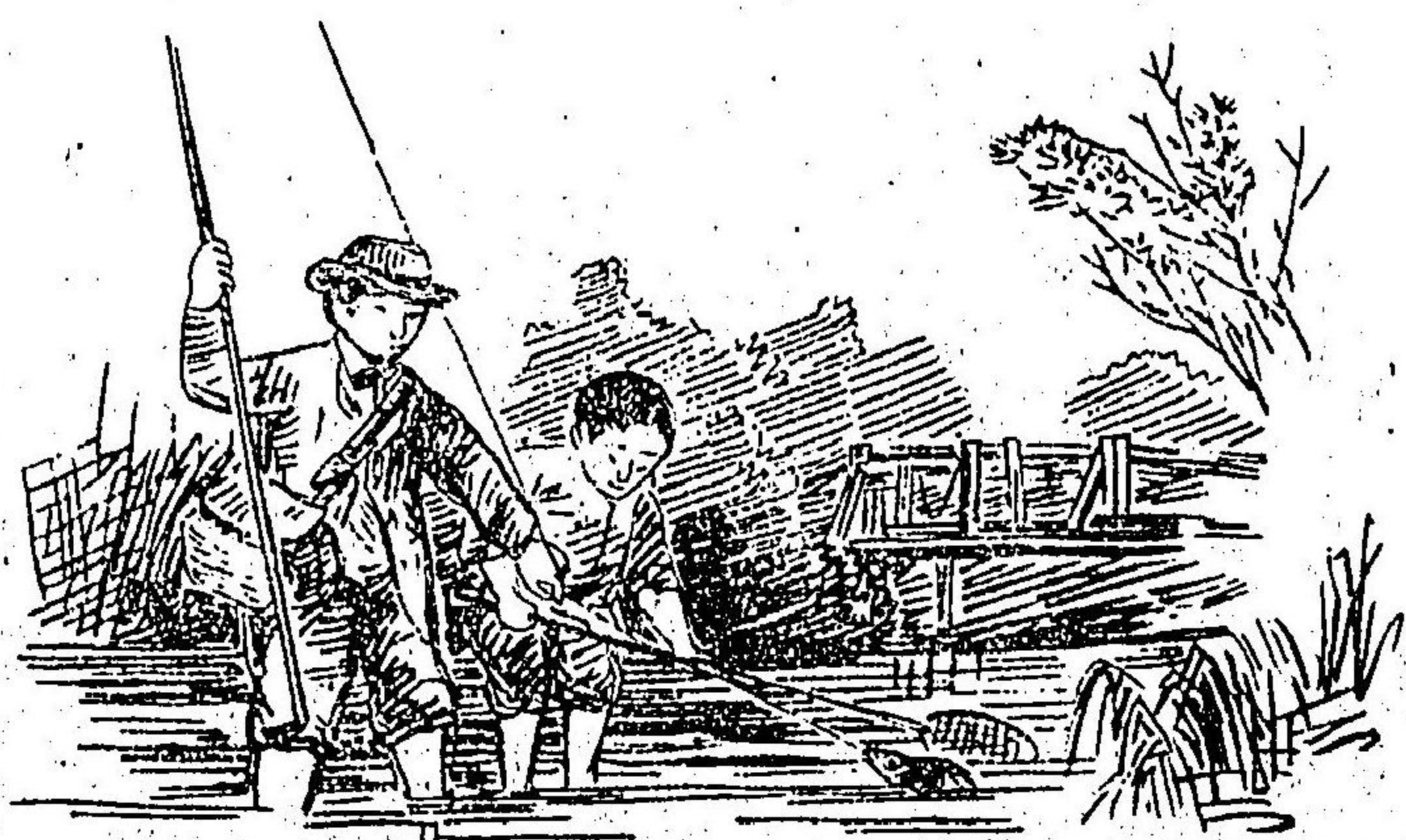
く見ゆるや○遠
く隔りたる處よ
在ればあり○童
子の上りて遊へ
る門ハ閉ちたり
や又廣く開きたりや
○否廣く開かど
して少しく開き
たり○然れども

此童子等は、彼車の、近づきたるときは、直ちに廣く開きて、これを通行せしむべし。

第九課

第一

汝ハ、此圖ヲ於テ、何を見ルヤ、○吾ハ大人ト童子トノ、水中ニ立つを見、○彼等ハ何を爲トと思フヤ、○彼等は魚獵ヲ來リタル所ナリテ、大人ハいま魚を釣りたれども、其



魚の大なる爲めに、強く引かば、糸の切れんことを恐れ居るなり、○汝ハ、彼童子の手に持ちたるものを何ありと思フヤ、○それは、網の種類ナリテ、此網と云ふものあり、○この童子はこれを用ひて、魚を捕へ居ると

も、大人の魚を釣りたるを見て、いまこれを
汕とんとする所なり。○汝は大人の脇に掛
けたるものを見たりや。○これハ魚を入る
、爲めの蓋ある籠なり。○汝ハ二人の立ち
たる處を甚と深しと思ふや。○吾は淺しと
思ふ若し深ければ、其中お入りて立つこと
能たざればなり。○此河の水ハ温かなりや
又冷なりや。○今ハ夏なるゆゑ冷かならば
○汝ハ此河に架けたる橋を見たりや。○此

橋は何よて造れりや。○橋よは石造のもの
と鐵造のもの、と木造のもの、とありて、これ
は木造の橋なり。○それハ新しき橋なりや
又古き橋なりや。○これは古き橋なり

第二

汝はこの童子を何歳なりと思ふや。○吾は
十歳許ありと思ふ。○彼は如何なる性の童
子ありや。○必と怠りものなるべし。○汝は
何故よこの童子を怠りものと思ふや。○彼



は何の職業もせび、又學問もせずして、空く
 日を送るゆゑ、怠りものなり。○然れども、
 若し、今より勉強せれば、亦賢き人と成るこ
 とを得べし。○此童子は何も寄りて、居るや、
 ○汝ハ、それを何なり
 と思ふや。○吾は大あ
 る石の柱なりと思ふ
 ○此童子は、遠方を瞰
 むる状あり。○彼の、遠

方を瞰むるは何の爲めなりや。○彼は、爰よ
 來りて、共々遊ぶことを約したる、朋友の來
 れるを待つふるべし。○童子等は、皆遊ぶこ
 とを好めるゆゑ、遊ぶべき時は、ハ、遊び戯る
 べし。と雖とも、學ぶべき時に、勉めて、これ
 を爲さざるべからば、○幼年の時、常々怠り
 たるものは、賢き人と成ること、能ハざるな
 り。

第三

爰よ又怠惰の童子あり。○彼ハ學校へ行くと曰つり。○何ゆゑ學校へ行かざるや。○何ゆゑ途中よて遊び居るや。○未だ學校へ行かばき時ならんや。○否最早稽古始まりて彼も既よ學び居るべき時なり。○然らば彼の爰よ止れるハ何の爲めなるや。○彼の犬を弄し又他の怠惰の童子と共よ遊ぶ爲めよ止まれるなり。○彼の書物を何處よ置きたるや。○彼の書物を家よ遺れたるゆゑ



たとへ學校へ行くと
も再び歸りて其書物
を持ち來らざるを得
ず。○善き童子は書物
を愛とるゆゑこれを
遺るることなく學校
へ行くとを好みて
其時間よは途中よて

遊ばざるなり。○此の如き童子ハ學校に行

き勉強して學ぶゆゑ何れの級よても多く
は其首席を占むるものあり

第四

これハ此童子の飼犬にして今蒸餅と水とを
與ふる所あり○この犬の頸よ捲きたるも
のは何ありや○それハ布の切れあり○こ
の犬ハ蒸餅と水とを好めりや○然り甚ぶこ
れを好めり○この犬は頸よ布切を捲くこ
とを嫌つりや○否これハ老たる善き犬お



れは如何よ扱はるゝとも決して怒り又嫌

ふことなり○此童
子の傍らに腰を掛
たる少女は誰なり
や○これハ彼の妹
あり○汝は其少女
の持ちたる盃よあ
るは何ありと思ふ
や○吾ハ蒸餅と水お

なりと思つゝ○倚子は倚りて、立ちたるは、
誰よりして、何を暇むるや○彼ハ此童子の兄
よして、犬ガ物を食ふを暇め居るなり○彼
ハ犬よ向ひて曰ふ、汝その蒸餅と水とは、汝の
體よ滋養とふるゆゑ好きて、これを食ふべ
しと、

第五

爰よ列を爲せる、七羽の鶩あり○汝ハ其進
むを見とりや○然り、一羽の鶩、案内を爲し



他は皆隨ひて行けり
○是等は爰よ來りて
何を爲したるや○こ
の池の中お入りて、游
ぎ遊びとるなり○然
らば、今何ゆゑよ列を
爲して進めるや○既
よ遊びて倦きたる故
己れの小屋に歸らん

とするあり○汝は其歸り行くべき路を知れりや○今彼等の行く状よりて之を考ふれば彼方より見ゆる生牆に沿ひて進むなるべし○彼等漸く進みて其牆の他の側に入る後はこれを見ること能はざるなり

第六

これハ何の状を示せる圖ありや○これハ牛と馬と二匹よて物を牽く所を示せるものなり○この牛と馬とは何を牽く所なり



や○これは荷車を牽く所なれども我等ハいまこれを見ること能ハズ○其荷車は汝の右の方より在りや又左の方より在りや○其車は右の方に在り○此人ハ馬より乗れるや又牛より乗れるや○彼は馬に乗れり○彼は

馬に乗る爲めよ其馬の背よ何を置けるや
○彼は鞍を置けり○汝も彼の兩足を見得
るや○吾ハ彼の左の足を見得れども右の
足を見ること能むば○彼は手と足とを如
何とるや○彼ハ手よ手綱を持ちて足を鑑
の上よ置けり

第七

爰よ畫けるは熟したる葡萄と柘榴との圖
なり○葡萄ハ甘けれども柘榴ハ甘き中よ



稍酸味あるものなり
○葡萄の一連を房と
謂ふ○葡萄ハ概ね圓
きものなれども今爰
よ畫けるは卵形のも
のなり○汝は葡萄と

柘榴と何れを最も好めりや○吾ハ最も葡
萄を好めり○葡萄ハ總て甘きものなりや
○否酸きものもあり○森の中よ生長とる



よ持ち歸るあり。○葡萄酒は、この葡萄の搾汁より、製とるものあり。

第八

野葡萄は、概ね酸味あるものあり。

又爰又晝ける三人は、熟したる葡萄を、掣き取る所あり。○彼等ハ、これを籠に入れて家

爰ふ、小河を越さんとする人あり。○然れども彼ハ、水中お入りて足を濕らすことを、好まざるゆゑ、人を雇ひ、之よ負えれて、渡る所

あり。○汝は此の如くして、河を渡る處を、好めりや、又自ら水中に入りて、越すことを、好めりや、○吾は、水の浅き處



なれば、歩みて越すことを好めり。○この雇
をまとたる人は、舟子なりや、又農夫ありや。○
これハ、農夫あり。○汝は、この小河の水を深
しと思ふや。○汝は、誤ちて、農夫の倒るゝと
きは、二人共、溺るべしと思ふや。○吾は、水
浅きゆゑ、溺るゝことをなしと思へり。○何故
も、浅しと思ふや。○若し、甚ど深ければ、農夫
も、歩みて越すことを欲せざればなり。
○此地方ハ、温暖ありや。○然り、椰子樹の生

長せしものある哉見れば、暖地なるべし。○
此樹は、暖地よ、あらざれば、生長せざるもの
なり。

第九

植物は、根より、食物を吸ひ上げ、葉よ、呼吸
を爲して、生活するものなり。○然れども、我
等の如く、事を考へ、物に感ぜることなく、又、
鳥獸の如く、運動すること能はば、
魚は、游ぐべき鱗あり。○鯛は、海に生活を



る魚にして、鮒ハ河、
又は湖ニ生活する
魚なり。○魚は水を
離るれば、久しく生
活すること能ハズ、
鳥は、二本の足と、
一對の翼あり。○鳥
は、大抵、空中に高く
飛ぶことを得れど

も、或は高く飛ぶこと、能はざるものあり、又
水上に浮びて、遊ぶことを得るものあり、
獸は、陸地ニ生活するものにして、四本の足
あり。○犬、牛、熊、狼の如き、是なり。○魚類と、鳥
獸とは、物不感ずれども、物を考ふることな
し。
人は、歩いて地上を行き、遊ぎて水中を行き、
又、船に乗って、水面を渡ることを得れども、
空中を隨意に飛び翔ること、能はず。○人は

動植の二物と異なりて、事よ感ふ、又物を考
ふることを得るゆゑに、鷲或ハ虎の如き、勇
猛なる鳥獸も、鯨の如き、大ある魚も、亦これ
を獵り捕ふることを得るなり、

第十

汝は、數多の種類の果實と種子との名を知
れりや、○汝ハ、豌豆と蠶豆とが、畠よ生長し、
又、小麥と裸麥とが、畑よ生長とるを見ると
きは、これを區別とること、我得るや、○然り、

是等の種子は、皆食物よ、用ひるものなるゆ
ゑ、其生長するを見るときは、之を別つこと

を得るなり、○草木は皆
種子を生ずるものにて、
蠶豆豌豆の如きもの
種子ハ、莢の中に在り、
又、胡桃の如きもの、種
子ハ、硬き殻の中よ、在り
て、李、林檎、橙の如きもの



の種子は皆其實の内部に在り。○種子の中
には大なるものあり、小なるものあり、又重
くして、熟むるときは直ちに落るものあり、
或は軽くして、遠方まで飛び散るものあり。○
總て、草木は種子より生むるものにして、其
種子を蒔き置けば、地中の水氣を吸ひ、漸く
膨脹して、遂に破裂し、其一部は地下に入り
て、根となり、其一部は地上に出で、幹、又ハ
莖と成る。○又、草木は葉にて呼吸を爲し、根

より、食物を吸ひ上るものなるゆゑ、根を切
り断つときは、漸く凋みて、終に枯るゝもの
なり。

第十一

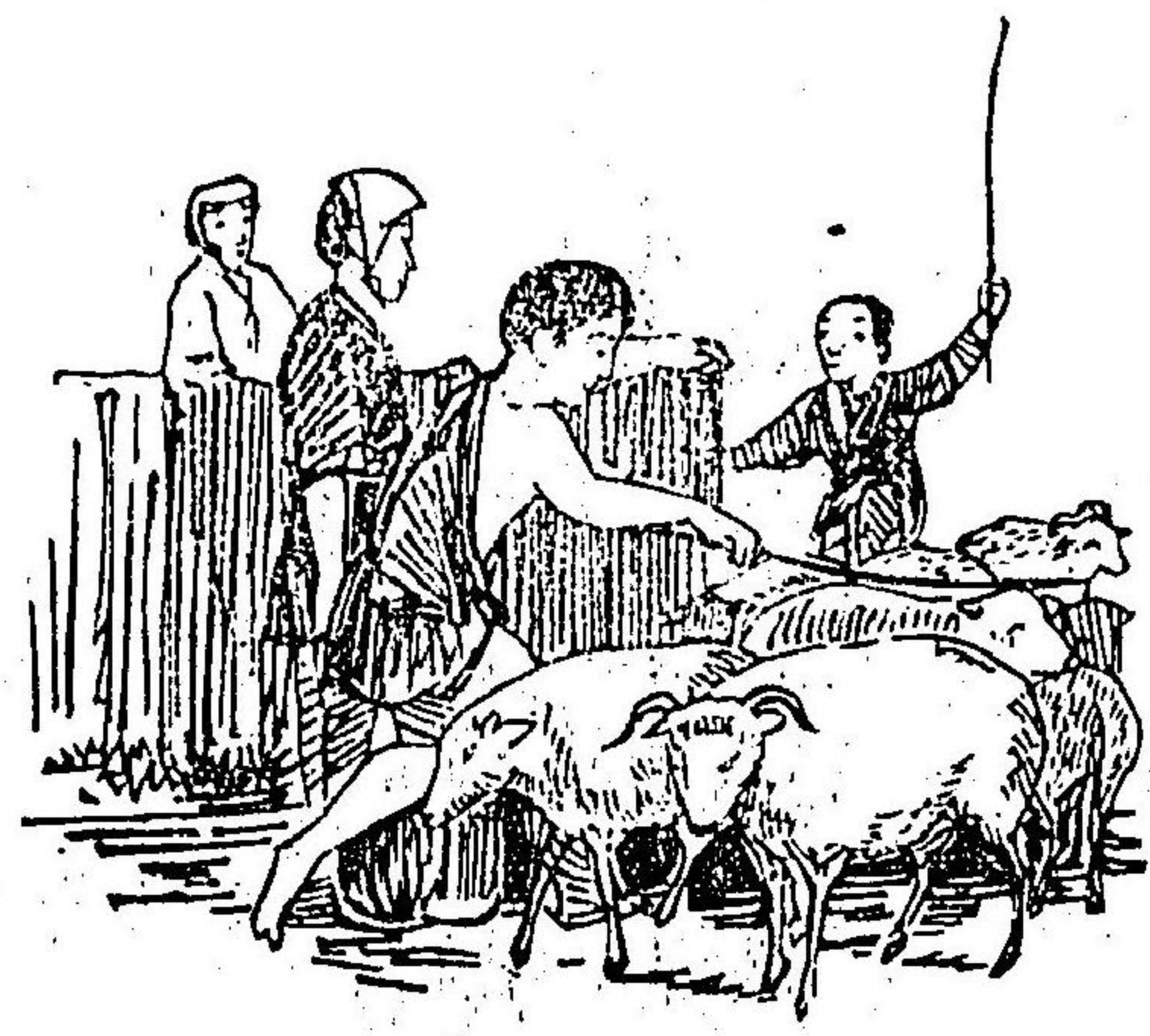
山羊は、山間に生活する獸にして、長き角と
長き鬣あり、其色は概して黒、又は茶にして、背
部は黒き線あり。○此獸は、嶮しき崖に登り、
灌木を索めて、之を食ひ、又好みて、樹木の皮
を食ふ。○山羊は、馴らむことを得れども、こ



ふ

羊は山羊と異なりて、鬣なげきとも角ある

れを苦くめるときは、其角を以て、人を衝くものなり。○此獸の肉と乳とは、甘くして、況く、病人の食物に用ひ、其皮に手套を製するに用

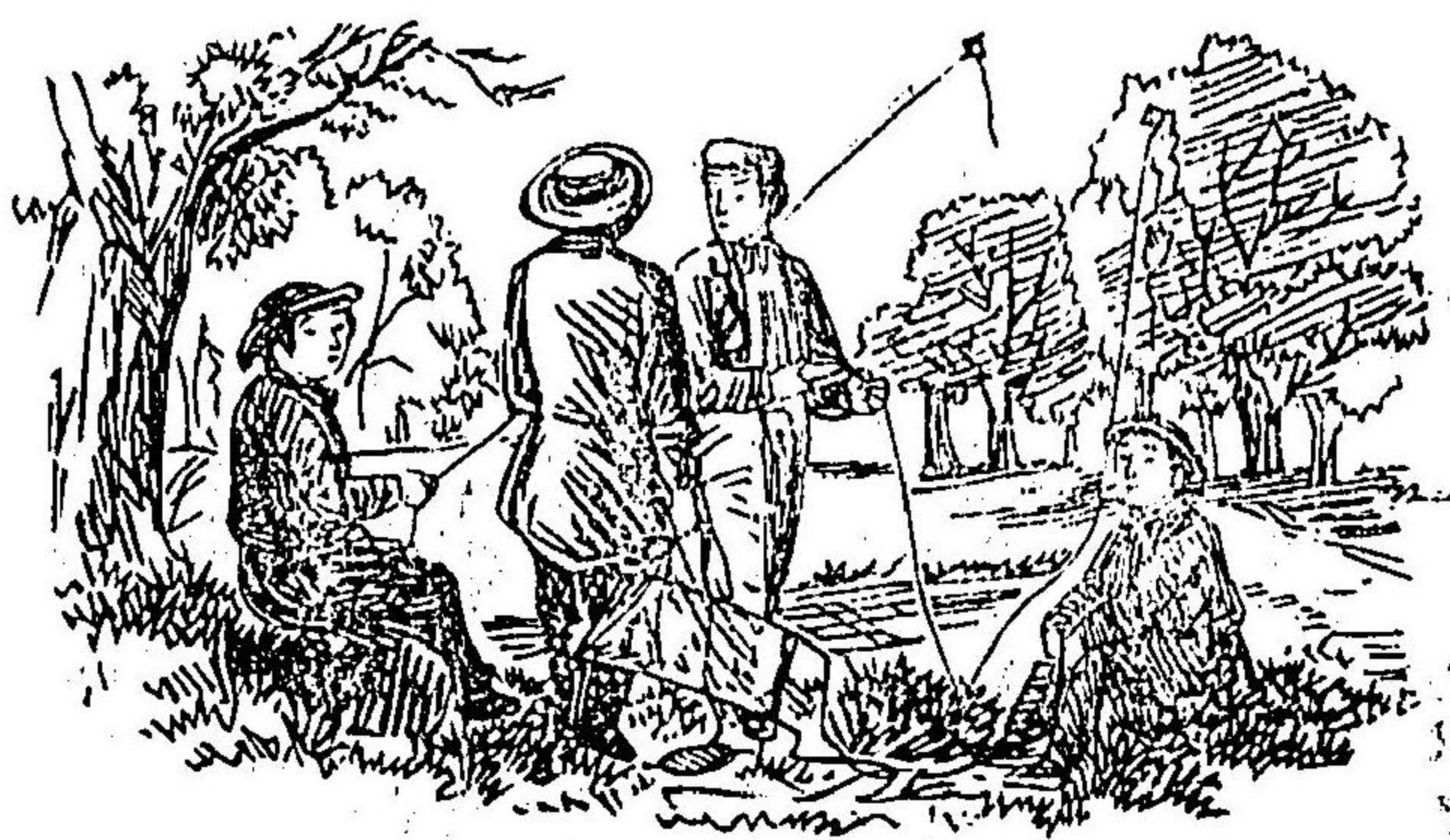


ものと、角なきもの
とあり。○此獸は群
を爲して、歩むもの
にして、生草、又は枯
草を食物とし、○羊
の毛は羅紗に織る
べく、其皮は滑して、

書物の表紙に用ふべし

第十二

吾は紙鳶を高く揚ぐること好めり。○汝ハ鳥の飛ぶ如く高く、吾の紙鳶の颺りたるを見たりや。○紙鳶ハいま殆んど見る能をざる程よく颺りされども、此の如く高く揚ぐるにハ長く時を費したり。○汝も亦紙



鳶を高く揚ぐることを好めりや。○然り、吾も亦これを好めども、揚ぐること拙きゆゑ、いま桃樹の上より落ち繋りたり。○然れども、吾はこれを取りて、再び揚げんと思ふあり。○此童子は他の紙鳶を持ちて、立ちたる童子より向ひて曰ふ、汝は何故よ、紙鳶を揚げんして暇め居るやと。○其童子答へて曰ふ、吾の紙鳶ハ、都合悪くして颺らざるゆゑ、最早これを揚げんと思をさればなりと。

第十三

これい悪き童子あり。○彼は、その帽子の中
に、何を持てりや。○彼
は、數多の梨子を持て
り。○それハ彼の梨子
よあらざりて、盗り來
りたるものなり。○こ
の二匹の犬は、彼が梨
子を盗み、牆を踰えて、



行かんとするを見て、爰よ來り、一犬ハ、彼よ向
ひて吠つ、怒り、他の一犬ハ、彼の衣服を啣つ
て、引き留めんとせむるなり。○汝ハ、彼が大お
る聲を發して、叫ぶを聞けりや、又彼の帽子
の中よ在る熟したる梨子を見とりや。○彼、
若し、其梨子を投げ棄つれば、犬は直ち、お彼
を放ちて、行かむべし。○何物よても、人の
物を盗り取るハ、甚ど惡きことなり。○善き
童子を、決して此の如きことを爲さざるな

り○凡そ品行を正くして、其業を勉むるものは、常よ幸福を受くれども、行狀悪くして、怠るものは、始終貧困を免るゝこと、能はざるなり

第十四

汝愛らば、羊汝ハ何を食ふことを欲せりや、○汝ハ穀物と、其粉とを好めりや、○吾は今、汝よ與ふべき穀物も、粉も持たざるゆゑ、彼處に行きて、草を食ふべし、○この羊ハ口



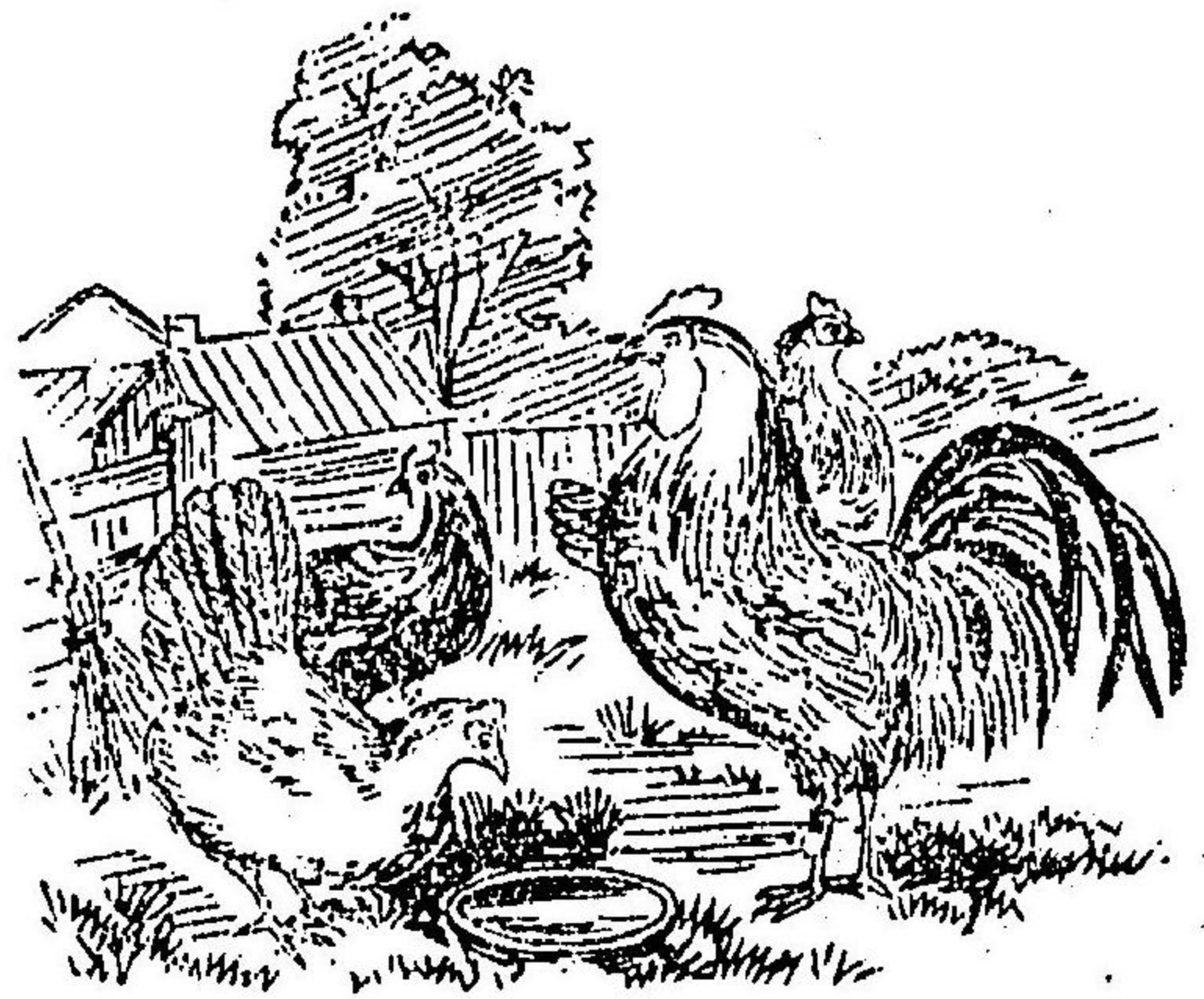
を開きしより、○汝ハ羊の吼ゆる聲を聞きたることありや、○これは食物を貰ふんと欲して吼ゆる聲なりや、○この羊ハよく馴れしるゆゑ、角を以て少女等よ傷をつくることな、○この少女等ハ羊を恐れ、其側らよ行きて、これよ食物を與ふることを得る

なり、○汝羊の毛は何も用ひるるを知れり
や、○其毛は細き糸も紡きて、羅紗を織るも、
用ひるものあり、

第十課

第一

汝は、此圖も於て、何を見るや、○吾も、四羽の
雞と、家と小舎とを見る、○其他に、何物をも、
見ざるや、○否、又家の傍も、生長せる樹木と、
塙も寄せ掛けたる箒と、雞の飲むべき水を



盛りたる鉢とを見る、○汝は、此鉢の中に、水
ありと思ふや、○然り、○其中も水あるべき
證ありや、○鉢の一邊、他の一邊より、多く見
ゆるは、即ち其證なり、○
若し、水なければ、此の如
くに、見ゆることなし、○
汝は、雞の水を飲むを見
たることありや、○雞の、
水を飲む状は、牛、又は、馬

の水を飲むと、相同トきや○否、雞は頭を下げて、水を飲むこと能えざるゆへ、其嘴を水中に浸し、口へ水の入るとき、頭を上げて、これを咽み下すものなり、

第二

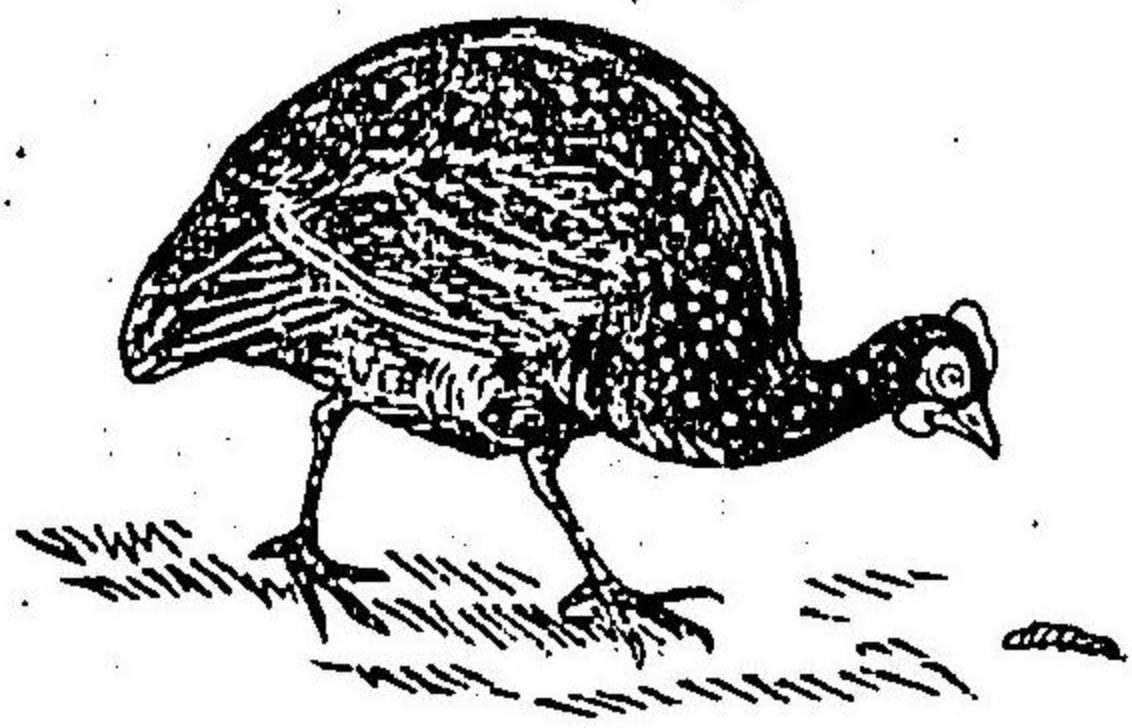
汝は此處を如何なる所と思ふや○此處は、小舎の外傍よりして、雞は今、梯を上りて、埒に入らんとせむる所なり○此梯はハ、幾個の階ありや○四個の階あり○雄雞は、梯の下より、第幾番の階よ、止れりや○下より、第三の階よ、止まり○



汝は、梯の下

に、如何ある鳥の居るを見るや○吾ハ、二羽の家鴨と、二羽の七面鳥とを見る○家鴨は、今、何を食はんとするや○大なる鰻を食は

んとせり



田變易とるものあり

爰ふ畫けるは、七面鳥なり。
○此鳥の頸も、雞の頸より
長くして、其羽は皆圓く
して小なる、白き點あり。○
此鳥の冠は、雞の冠と相異
なりて、一日の中も、其色數

小學讀本卷之四終

明治十五年五月廿日版權免許
同年九月出版

定價拾貳錢

纂譯人

東京府士族

宇田川準一

東京西小川町丁目七番地

出版

文學社

東京馬喰町三丁目一番地

